

(3) ながの地域くだもの+ (プラス) まるごと商談会の開催 (ながの果物語り)

■背景とねらい

「ながの地域くだもの+ (プラス) まるごと商談会」は長野地域で生産された果物やその加工品に加え今年は農産物及び加工品を対象として、農家等と実需者との商談・交流の機会を提供することにより、新たな販路開拓や商品開発を通じた地域農業の活性化を目的として開催した。商談会の実行委員会は長野地域振興局企画振興課、商工観光課、長野農業農村支援センター、関係団体で構成され、本年は農業農村支援センターが事務局を持ち、主体となって進めた。

一昨年・昨年と長野地域で生産される果物と、その加工品に限定して商談会を開催してきたが、実需者からの要望で、今年は特色ある農産物も加えて開催された。

開催日はぶどうの「シャインマスカット」等の、くだものがそろそろ 10 月 7 日に設定したが、コロナ感染症が拡大したため、12 月 2 日に延期して開催した。

■本年度の取組みと成果

1 売り手側の募集

売り手側の募集は6月7日からの2か月間にわたり支援センターホームページで行った。また、開催延期に伴い11月12日まで2次募集した。また、参加者にはFCP展示会・商談会シートの作成、提出を求めた。

2 買い手側の募集

買い手側の募集は6月7日～8月27日の80日間にわたり行った。開催延期に伴い11月19日まで2次募集した。



写真 第1回事前研修会(密にならない様)

3 事前研修会の開催

売り手側参加者の事前研修会

- ・第1回 7月31日

「くだもの商品化について」

商談会参加者等 11 名出席

- ・第2回 11月22日

「商談会における商品展示方法とバイヤーへの提案方法について」

商談会参加者 8 名出席

4 商談会の開催

コロナ禍が小康状態となった 12 月 2 日、快晴に恵まれ、長野駅前のメルパルクのイベントホールにおいて商談会が開催された。コロナ感染拡大防止のため、受付には体温測定器、会場入り口には手指消毒用アルコール、商談用ブースにはアクリルパネルを設置し、コロナ感染予防に万全を期した。

売り手側は 26 ブースの出席、買い手側は 31 業者が参加、午後 1 時の開会式の後、4 時までの 3 時間の活発な商談が行われた。

特に個別マッチングは売り手・買い手双方から希望を取り商談を行った。売り手の中には時間中の 6 コマすべてを使って積極的に商談を実施して成約に結び付けた猛者もいた。

■今後の課題と対応

商談会は積極的に声掛けしたものの勝ち。農家等にそのノウハウをさらに指導していく。



写真 商談会 実物とパネルで商談中

(地域第一係 伊藤)